

# NCVC Diversity News

01

News letter  
March, 2020

## Contents

ご挨拶 P1  
ビジョンとミッション P1ダイバーシティ講演会 P2  
男性医師の子育て体験記 P3国際学会体験記 P3  
研究助成報告会 P4

## ダイバーシティ人材育成推進室 室長からのご挨拶

国循には、専門医・レジデント・看護師の教育制度、又は外国人研究者の支援における長い歴史があります。ダイバーシティ人材育成推進室は、センター職員・研修生や研究者のため、マタニティ支援・育児及び介護支援に関する情報を播種すること、また、来日する外国人客員研究員・研修生や派遣研究者のため、働きやすく住みやすい環境に関しての情報を提供することなどを通じて、多様性に富んだ個人の能力を最大限に活かせる職場作りを目的に設立されました。どんな方でも、子育て、介護などのライフイベントに対応しつつ働き続けることができるような支援体制を整え、出来るだけ各人が業務に専念して取り組める環境作りを目指しています。我々の当面の目標は女性および外国人にとって、国循での業務上において不利となる障壁を無くすことです。

ダイバーシティ人材育成推進室  
室長 ピアソン・ジェームズOffice for the Promotion of  
Diversity and Inclusion  
Director James Pearson

The NCVC has a long history of training medical professionals and supporting foreign researchers at this national center. The Office for the Promotion of Diversity and Inclusion was established to support staff, trainees and researchers in relation to disseminating information about maternity-paternity leave, childcare facilities and utilizing carer support leave, as well as helping new foreign researchers, trainees and visitors with information about working and living in Osaka. We hope to provide such advice to anyone needing support to enable them to continue work while raising or supporting their families and thus create a working environment that is rich in diversity, enabling individuals to work to the best of their abilities. Our present goal is to break down any barriers that disadvantage female or foreign persons in their work place at the NCVC.

## ビジョンとミッション Vision and Mission

### ビジョン (室の目指す国循の姿)

- ▶ 国立循環器病研究センターが、性別、国籍その他の多様性に裏付けられた個人の能力を最大限に生かして働くことのできる魅力のある職場として、国内外から認知される。

### ミッション (ビジョンを果たすための作戦)

- ▶ 各人が、出産、育児、介護等のライフイベントに対応しつつ働き続けるための各種制度およびインフラの整備。
- ▶ 言語および文化背景の違いによらず、業務および研究に邁進できる環境の整備。



ダイバーシティ人材育成推進室のメンバー

### Vision:

- ▶ NCVC will be recognized all over the world as an appealing workplace where individuals can work to the best of their abilities regardless of gender and nationality.

### Mission:

- ▶ To improve institutional infrastructure so that individuals can continue to work during life events such as bearing children, raising infants and caring for family members.
- ▶ To realize a fully productive working environment regardless of cultural background and language.

# 研究フィールドは世界へ!

女性研究者と世界を繋ぐ道しるべ

ダイバーシティ人材育成推進室では、女性研究者でも海外で研究を行い、さらに能力を伸ばしてもらえよう、若手女性研究者の海外派遣を助成しています。そこで今回「女性研究者と世界を繋ぐ道しるべ - 研究フィールドは世界へ!」と題して講演会を開催し、留学・海外赴任の経験をお持ちの西谷(中村)友重先生に「留学のすすめ」をテーマにお話を伺いました。



## 西谷(中村)友重先生 プロフィール

岡山大学薬学部卒、大学院博士課程で培養心筋細胞に魅せられて研究の世界へ。大学院在学中に結婚したご主人のイギリス留学に伴ってロンドンUMDSでリサーチフェローに。博士号取得後、ニューヨーク大学でポスドク、国循で科学技術特別研究員としてイオンチャンネル・トランスポータの研究を行う。再びニューヨーク大学にAssistant Professorとして赴任、Ca<sup>2+</sup>センサーの研究に従事するなか子供を授かり日本に戻り出産。その後は国循で分子生理学、心臓生理機能部の室長を務め、2020年1月より和歌山県立医科大学薬理学講座教授。

留学前の自分は、真面目で、おとなしくて、心配性の典型的な Japanese girl だったという西谷先生。イギリス、アメリカでの合計7年半の留学・海外赴任は、様々な困難にぶつかりながらも新しい自分を見出した、まさに人生を変える経験だったそうです。ロンドンでは初めての海外生活で生活習慣の違いに戸惑いながら、心筋イオンチャンネルの電気生理の研究に励みます。渡英2か月にしてスポンサーを前に英語での研究発表をした経験は大変だった分、大きな糧となりその後の国際学会発表などに活かされたといいます。2年後にはアメリカに渡り、ニューヨーク大学で新しいラボの立ち上げに関わりながら最新のサイエンスを肌で感じ、アイデアに満ち溢れた環境で研究を純粋に楽しんだ20代を過ごします。一時期、日本に帰国しますが、またすぐにニューヨークから Assistant Professor として一緒に研究しないかとの誘いを受け、迷いはあったものの、このままじゃ普通の生き方、困難だけども未知なる道を選んでみようかと再び渡米。グラント申請や学生の卒論校閲の仕事もこなしながら研究者としての将来を模索する中、3年目に赤ちゃんを授かり出産のため帰国します。

その後、国循の分子生理学部に室長として採用され、当時1歳の娘さんと大阪で二人暮らしを開始。日本の女性研究者が経験する多くの壁にぶつかりながらも、ご両親の助けもあり、研究では心臓・神経系における Ca<sup>2+</sup> センサー NCS-1 の多彩な生理機能の解明で入澤彩記念女性生理学者奨励賞(入澤彩賞)を受賞。日本生理学会の男女共同参画推進委員や将来計画委員を務めるなど女性研究者の環境改善や今後の生理学発展のための取り組みにも携わり、多くの人とのつながりによって新しい可能性が広がったとい

います。2020年1月からは和歌山県立医科大学薬理学講座の教授となり「私らしい研究をする」という夢の実現に向かって邁進中の西谷先生。海外経験で得たものは、日本と海外の良さを発見できたこと、生涯の友を得たこと、最新のサイエンスを楽しむこと、そして何より「できるはず」と思える自信を持てるようになったことで、それらがすべて今の研究生活に活かされていると語ってくださいました。

後半の座談会では、元上司の先生方からは今後の活躍を期待するエールが送られ、女性参加者からは女性研究者として苦労したこと、家族や子育て、人生の選択についての質問が相次ぎ、貴重な経験談を共有することができました。



※当初の予定では、日本の大学を卒業後、アメリカで研究を続けられているJunco Warren先生にも講演していただく予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により今回は来日がかなわず、Warren先生にはあらためてご講演いただくこととなりました。

規模を縮小し、センター内の職員・研究員のみでの開催となってしまいましたが、当日は19名の参加者が集まり和やかな会となりました。

## 男性医師の子育て体験記

心臓血管内科部長 草野 研吾

我が家は現在、妻、4才の長女、3才の長男、1才の双子の次女、三女の6人家族です。

双子妊娠がわかってから、双子の育児は大変だろうと想像はしていました。しかし、その前の段階で妻が切迫早産となり、二カ月間の入院を余儀なくされ、自分が当時1才と3才の二人の子育てをするという大変な時期を迎えることになりました。その間有休をとろうと考えたところ、事務側より「育児休業（育休）」とは別の制度で、男性職員の「育児参加のための休暇」という名前の有給の制度（特別休暇）があることを教えていただきました。この制度は育休と比較していくつか良い点がありました。育休は子供が生まれてからの取得に限定され、一旦取得し終了すると再度の取得はできません。また給料が減額になり、ハローワークへの申請など手続きが大変です。一方、育児参加のための休暇は、出産予定日の6週間（多胎妊娠の場合は14週間）前から取得でき、また出産の8週間後までの5日間として非連続的に休みが取れ、有休と同様の手続きになるため、自分には合っていました。週1回ずつ計10日間

分、外来や会議の日を外して、育児参加のための休暇や有休を取らせていただきました。

週1回ではありましたが、これが大変貴重で妻からもとても感謝されました。また周囲の皆さんの反応もあたたかく業務をカバーしていただいたり、メールのやり取りで対応いただいたりと、ご協力に感謝しています。

普段から家事・育児はよくやっている方で、また現在もおばあちゃんのサポートという幸運もあり、なんとか4人の育児と仕事の両立を乗り切っていますが、やはり大変です。国循では男性職員で育休を取る方は大変めずらしく、この育児参加のための休暇が活用されているようです。みなさん、家族の平和のために仕事と育児の両立を目指して頑張りましょう！



## 国際学会体験記 EAFONS（東アジア看護学研究者フォーラム）での学会発表を行って

5E 病棟（重症心不全・成人先天性心疾患）副看護師長 池上 良子

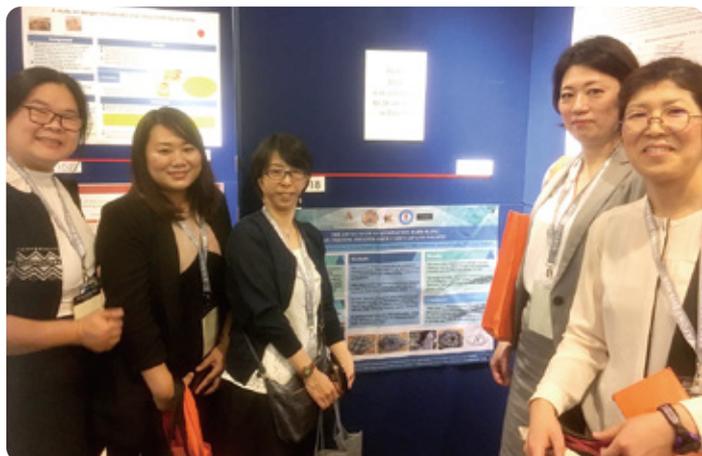
私は2019年1月17日から18日にかけて、シンガポールで開催されたEAFONS（22nd EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS）に松室有希師長、大手前大学の西村直子教授と参加して参りました。EAFONSとは、博士号を取得した大学教員とその学生達に定期的な研究発表の場を提供している東アジアの看護学研究者のフォーラムであり、1977年以降、香港、韓国、タイ、フィリピン、台湾、日本、シンガポールで毎年開催されている学会です。

今回、ICUでFontan術後にHigh Flow Nasal Cannulaを使用した患児と使用しなかった患児の機嫌を評価しました。Fontan術後のHigh-flow nasal cannula群と酸素マスク群における鎮静剤投与中と投与終了後の患児の機嫌は同等であったという結果を「Sedation Status for Children with High Flow Nasal Cannula after Extubation post Fontan Procedure in

Neonatal Intensive care unit」（Fontan術の抜管後におけるHigh-flow nasal cannula群と酸素マスク群の機嫌の比較）と題してポスター発表を行いました。ポスター会場にはアジア各国からの発表が展示されており、各国ごとの看護の取り組みを学ぶことができました。また、会場で知り合ったタイの看護師が偶然にも循環器の専門であり、日本とタイの術後の看護についてディスカッションする機会を得ることができました。その中で、術後のsedationについてスケール指示を確認しながら看護師が管理しているという話を聞いて、私たちも専門性に加え実践能力を高めていく必要性を感じました。

シンガポールへは関空から飛行機で約7時間です。四季のない熱帯性モンスーン気候のため、チャンギ国際空港では着ていたコートをスーツケースの中にしまい込む程の暑さでした。国土は東京23区とほぼ同じ大きさで、市内の交通手段はMRT（地下鉄）やタクシーが日本と同じ感覚で利用できます。食事は甘辛くスパイシーなシーフード料理、飲茶、マレー料理などおいしいような料理がたくさんあり、何を食べようか迷ってしまうほどでした。

今回、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの助成を受けられるとのことで、海外での発表にチャレンジしてみようと考えました。そして、私と同期であり20年前に一緒に働いていた大手前大学の西村直子教授に相談したところ、指導をしていただけることとなり、発表することができました。このように海外の学会に参加することにより、私自身モチベーションを高めることができました。海外での発表はハードルが高いと思いますがチャレンジする価値は充分あります。一緒に頑張りましょう。



ポスター発表会場にて。右端が筆者、西村教授（中央）、松室師長（右から2番目）らとともに。

## 2018年度ダイバーシティ研究助成報告会（国立循環器病研究センター）

2018年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」により助成を受けた研究の成果報告会を、2019年8月6日に行いました。

国立循環器病研究センターは、2019年6月に大阪府吹田市岸部新町に移転し、新病院も7月1日に開院しました。産学連携の場として、新たにオープンイノベーションセンターが開設され、その中に、臨床従事者・研究者交流の一層の活発化を目指した「サイエンスカフェ」が併設されています。成果報告会は、そのサイエンスカフェの会議室で開催されました。普段、研究室や医局で少数派の女性が、報告会では大勢を占め、和んだ雰囲気の中で進行了しました。2018年度の研究助成は「新規上位職の研究助成」「長期・短期海外派遣助成」「国際共同研究助成」があり、全11課題の中5課題の成果について、主任研究者より報告がありました。すべて「循環器」がキーワードの研究ですが、研究内容も非常にダイバーシティに富んだもので、活発な質疑応答が行われました。

会の最後には、国立循環器病研究センター理事長特命補佐の寒川賢治先生より、助成研究成果を講評していただくとともに、「今後一層、ダイバーシティ人材育成推進室の使命を果たし、センターの、ひいては循環器病研究の発展に寄与してほしい」との激励をいただき、会は盛況のうちに終わりました。



### 女性研究者のための研究助成

国立循環器病研究センターは、文部科学省科学技術人材育成費補助事業（2018～2023年度）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に選定され、女性研究者の海外派遣等を通じた上位職登用の一層の推進や、より広いダイバーシティ研究環境の形成に取り組んでいます。

### 2020年度の助成内容

-  **海外派遣助成**  
短期（国際学会など）や長期の海外派遣を通じて研究力向上を支援します
-  **長期海外派遣中の女性研究者の代替者雇用助成**
-  **新規上位職の研究助成**  
新たに上位職に登用された女性研究者のスタートアップを支援します
-  **国際共同研究助成**  
国際的に活躍できる自立した女性研究者の養成を支援します



国立研究開発法人国立循環器病研究センター ダイバーシティ人材育成推進室  
National Cerebral and Cardiovascular Center Office for the Promotion of Diversity and Inclusion

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号 TEL: 06-6170-1070 (代) Mail: diversity@ncvc.go.jp  
<http://www.ncvc.go.jp/education/diversity/>

